

令和三年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和4年 4月
学校法人育英幼稚園

1.本園の教育目標

- ・幼児期にしかできないさまざまな遊びや活動を通した生活の中で、社会のルールを学び、思いやる心や豊かな感性、生きる力・学習の根を育む
- ・居心地の良い温かな環境の中で、一人ひとりの子どものよいところを認め、伸ばす
- ・家庭と幼稚園が手を取り合って、一緒に子どものことを考える
- ・全教員が全園児と関わる

2.令和三年度 重点項目・教育課程→別紙参照（年間教育課程）

3.評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程 環境の充実	A	<ul style="list-style-type: none">・各学年の発達に基づき五領域に沿った教育課程を作成、保育に反映させた。・保育者は教育的配慮をもって物的環境を構成している・人的環境として子どもが全ての活動に主体的に取り組めるよう一人ひとりに応じた援助を行っている・月ごとのカリキュラム作成においても教職員間で話し合い、活動におけるねらい、目的を確認し例年にとらわれることなく新たな活動も取り入れた。
2	教育内容 方法の充実	A	<ul style="list-style-type: none">・今年度も引き続き、十分な感染対策を講じながら保育を行った。戸外では暑い時期に熱中症予防としてマスクの管理を行いながら水分補給に努め水分補給に努め尚且つ子どもたちが思い切り体を動かし、自主的に好きな遊びを楽しむ環境を守り整備した。・運動会、遠足、音楽会、発表会などの大きな行事はその時々感染患者数をふまえ、観覧できる保護者の人数を都度増減しながら遂行した。
3	教師の役割 資質向上	A	<ul style="list-style-type: none">・毎日保育後に職員会議を行い、クラスの子どもたちの成長、課題、今後の留意点を報告、相談し今後につなげた。全職員が全園児への共通理解を深めることによって子どもへの対応に相違がないよう努めることができた。・ZOOMによる研修会にも積極的に参加するなどそれぞれが自己研鑽に努め内容について報告し合い教職員間で情報の共有に努めた。・夏休みの期間には教員間で小グループに分かれ、それぞれ現時点での保育課題や深めたい遊びについてテーマを出し合い、園内研修を行った。
	家庭との連携		<ul style="list-style-type: none">・降園時に、子どもたちのその日の様子を一言保護者へ伝えることで家庭との連携を深め信頼関係の構築につなげていった。・日常保育における活動の様子を保護者へお知らせするため

4	子育て支援	B	<p>幼稚園ホームページの更新を随時行い、情報の発信に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大により、保護者会はZOOMでの開催を余儀なくされた。保護者と対面で会談する機会が減り、幼稚園教育の意義について理解が深まりにくい状況はこれから改善していく必要がある。 ・預かり保育においても感染の状況を見極めながら可能な限り行い支援の必要な家庭に協力する機会を設けた。
5	安全、衛生 危機管理の 充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全園児に健康カードを配布し、検温、体調の変化などを登園時に確認し感染防止に努めた。また保護者が園内に入る場合は手指の消毒の協力を仰いだ。 ・今年度も充実した保育に取り組むとともに、子どもたちへの手洗いの習慣化、昼食時での黙食、パーテーションを活用し感染対策を行いながらの活動、消毒の徹底など職員間で十分に共通意識を持ち対策を行ってきた。 ・子どもたちのマスク着用は任意としながら、各家庭の協力もありおおむね着用、管理ができ園内でのクラスター防止へとつながった。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4.総合的な評価結果

評価	理由
A	<p>5つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、物的環境、人的環境ともに十分に配慮された保育内容となった。</p> <p>本園カリキュラムの二つの大きな柱である「自発的な遊び」と「みんなで共有する活動」を基本とし一人ひとりの子どもを大切にしたい質の高い教育を実践することができた。</p>

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5.取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	ICT化の推進	保護者へ向けたドキュメンテーションや子育て支援事業（未就園児クラス活動）などの申し込みをICT化させ、情報提供の利便性を図る
2	安全管理	昨今増大する自然災害、緊急事態発生に備えて、危機管理を教職員間で共通理解し意識の向上に取り組む

6.学校関係者の評・第三者評価

第三者評価

1. 自己評価項目の設定ならびに取り組み状況について

- ・評価項目の達成状況については、各項目について丁寧に取り組み、達成されている。
- ・コロナ渦という特殊な状況下における保育の在り方について、主体的に考え、実践している。

2. 教育内容、方法について

- ・教育活動については、あらかじめ目標を設定し、実践・評価・改善という循環(PDCA サイクル)に基づき、今実践している教育活動を、よりよいものに改善するという意識をもって教育にとりこんでいる。
- ・都会に立地されている幼稚園であるが、畑やツリーハウスなど、自然環境と子ども達が触れ合う機会を増やせるような環境整備がされている。
- ・園の教育理念である「個性尊重」は、ともすれば一方的な自己主張につながりかねない点がある。しかし幼児期の発達段階をふまえた上で自ら考える「個性尊重」の教育を実現するために、独自のカリキュラムとして「わの時間」を設定している。「わの時間」とは、子ども達に色々なことを考えさせ、それをどう考えるかを自分の言葉で表現させることを通じて自分が尊重されていることを実感させる。そして、この実感が他者への思いやりにつながっていく、といった互いを尊重することで成立する「個性尊重」を実現させるための取り組みである。また後述する「わつなぎの会(保護者の会)」と共に、園の教育理念が実際の園の教育に反映されるように、システムの中に組み込まれている点が評価できる。

3. 家庭との連携

- ・子どもの教育を考える場合、保護者からの協力は不可欠である。育英幼稚園の場合、園の教育理念である「個性尊重」を実現するため、保護者による「わつなぎの会」がある。「わつなぎの会」を通して、保護者のわ(輪と和の意味)を結び、園の教育理念が実現できるようにしている点が評価できる。
- ・ただしこの数年は、コロナ渦のため保護者との連携についてはどうしても制限される側面がある。しかし、保護者との連携をとることが難しい中、ZOOM や HP の活用することで、家庭との連携を深めようと努力している点は評価できる。
- ・保護者との対面コミュニケーションの減少による負の影響を意識しており、今後の教育活動の取組にきちんと反映されると考える。

4. まとめ

コロナの影響から、例年実施されている保護者アンケートは 2021 年度も実施されなかったが、子ども支援学会が行った保育職への調査に協力していただいている。この調査は、無記名ならびに個人の回答傾向がわからないような形で実施・回収されたものである。今回育英幼稚園の第三者評価をするにあたり、調査責任者として、育英幼稚園側の許可を得て、この調査の結果を一部、考察の中に組み込むこととした。またこの調査は、保育職への調査であるため、育英幼稚園のサンプル数は 13 名と少ない。そのため育英幼稚園の数値は、参考までに調査結果の一部を掲載しておく。

表1は最初に勤める園を決めた時、園の教育や保育の方針を「とても重視した」とする割合は、今回調査に協力していただいた首都圏近郊にある 22 の幼稚園の平均と、育英幼稚園の数値を比較したものである。

表1は、園に勤める際園の教育や方針を「とても重視した」割合を示している。育英幼稚園の場合、幼稚園の平均 42.8%を大きく上回る 84.6%となっている。このことから、育英幼稚園の教育方針や園での教育実践が、幼稚園教諭希望者の心を動かすものであることが推測される。

最初に勤める園を決めた時、園の教育や保育の方針を「とても重視した」

幼稚園の平均	育英幼稚園(参考数値)
42.8	84.6

「とても重視した」「わりと重視した」「あまり重視しなかった」「ぜんぜん重視しなかった」の 4 尺度で質問

表2は、職場環境としての評価について「非常にそう思う」の割合を載せてある。小学校や中学校の場合、基本

的にクラス担任が中心となって教育活動が実践されていくが、きめ細やかな教育が求められる幼稚園の場合、教師—子ども間の教育だけでなく、園全体で子どもを育むことが必要とされる。表2は、「子どもの情報が園で共有される環境になっている」「悩んだ時、相談や助言ができる環境になっている」について「非常にそう思う」と回答した割合がのせてある。育英幼稚園の場合、幼稚園の平均よりも高く、全体の6割が「非常にそう思う」と回答しており、子どもの教育を実践するのに働きやすい職場環境が保たれていると推測される。

表2 職場環境 (非常にそう思うの%)

	幼稚園の平均	育英幼稚園(参考数値)
担当する子どもの情報を職場で共有できる環境になっている	48.9	61.5
子どもへの対応に悩んだ時、相談や助言をもらえる環境になっている	49.3	69.2

「非常にそう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」の4尺度で質問

このように育英幼稚園の場合、子どもに対してだけではなく、保護者や教職員についても考え、よりよい環境の整備につなげている点は評価できる。

コロナ渦における幼児教育が抱える課題の解決や、幼保一元化の流れの中で幼稚園がどうあるべきか、といった、幼稚園というシステム自体が抱える課題など、今後取り組むべき課題は多い。しかし、第三者評価を通じて外部から育英幼稚園を考察した結果、園・教職員・保護者が一丸となってその課題に取り組み、子どもにとってよりよい環境の整備を目指す素地が整っていることを感じた。今後のさらなる改善や発展に期待をしたい。